



### 宮城県・仙台市の建設・土木工事経営審査評価点・総合評価がISO14001と同格になりました。

規格が2版に改訂され、平成21年4月の新規構築事業者からは最新の規格で構築・運用のために評価員による各コンサルが行われております。既に構築・運用あるいは認証登録をされた事業者については6月より1年間のスパンで全社が随時新規格へ移行できるよう当方でバックアップして参ります。

平成21年4月1日より宮城県の建設、土木工事経営審査評価点が5点から10点にアップし、総合評価においては宮城県、仙台市の建設工事、建設関連業務とも総合評価で1点加算の対象となりISO14001と同格の評価となりました。建設・土木関連の事業者から構築申込の大幅な増加が予想され、事務局ではこれまで以上に管理、事務遂行について顧客満足のために正確かつ迅速な対応が求められますので、さらに緊張感を持って業務に当たって参ります。

また今年度からの事務局事業のひとつ「内部環境監査研修会(またはレベルアップ講習会)」の定期開催(年に3、4回)を予定しております。構築事業者を対象とした講座で、認証取得後、次のサーベイランスまでに何をしたら良いのか?新入社員の環境教育は誰にお願いすれば良いのか?次年度の環境活動のテーマは何を選べば良いのか分からない!といった内容を解決させて頂く特別講座です。受講者は異業種同士ですが、同じみちのくEMSの構築事業者ですのでそれぞれ抱えている悩みの共有化やその解決策を模索するための情報交換などが実現できると思います。ご期待ください。

まだまだ取り組んでいただきたい事業者があります。1社でも多く、当システムに取り組んで貰い、認証を取得して本当に良かった!と満足する中小企業をさらに増やして行きたいと考えております。引き続き皆様の応援のほどよろしくお願い申し上げます。



みやぎグリーン購入ネットワークは、今年度も各市町村で開催される環境フェア等の地域イベントに出展します。パネルの展示、環境配慮型製品の展示、PRちらし、「グリーン購入ガイドブック宮城県北エコな旅」冊子の配布をすることにより、グリーン購入の普及啓発及びみやぎGPNの周知を行います。グリーン購入の普及、促進の下支えとなる社会貢献をしていただける企業、団体を募集中です。年間一万円の会費で価値ある社会貢献になりますよ。

#### 平成21年度主な事業のご紹介

##### (1) 会員セミナー

開催:6月19日(金) 13:30~15:30

会場:宮城県自治会館 200・201会議室 定員:50名

- ①「オフィスに地域に環境にやさしい富士ゼロックス宮城の取り組み」  
富士ゼロックス宮城(株) マーケティング本部長 大堀隆夫氏
- ②宮城県から「わか社のe行動(eco dol)宣言による環境配慮実践事業者認定について」

##### (2) 製造業等のグリーン購入セミナー

「グリーン購入セミナー エコプロダクツの開発におけるカーボンフットプリントの果たす役割」

開催:7月16日(木) 13:30~15:30

会場:エル・ソーラ仙台(アエル28F) 大研修室

講師:グリーン購入ネットワーク 次長 深津学治氏

対象:一般企業 定員:50名

##### (3) 「自治体のグリーン購入セミナー」

開催:11月 会場:宮城県の施設

対象:宮城県内自治体36 定員:70名

講師:GPN事務局関係者、環境省、宮城県等

##### (4) 「グリーン購入セミナー」

開催:2月頃 対象:一般企業、団体、自治体 定員:50名

講師:GPN関係者、他

##### (5) グリーン購入市場調査

環境配慮型製品の販売状況に関するアンケート調査

#### 環境会議所東北 新入会員紹介 (敬称略) 2009.5月末現在

- 巴工業株式会社 <http://www.tomo-e.co.jp/>
- 有限会社アクティブサウンド <http://www.activesound.co.jp/>
- 株式会社スペース
- 北日本環境整備株式会社
- 菱機工業株式会社仙台支店 <http://www.ryokikogyo.co.jp/>
- アットサイト・ジャパン株式会社
- 株式会社大川原製作所 <http://okawara.co.jp>

#### 発行・編集 NPO法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6

TEL.022-218-0761 FAX.022-375-7797

E-mail [kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp](mailto:kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp)

URL <http://www.kk-tohoku.or.jp>

#### 編集後記

6月は環境月間で、環境に係るイベントが開催され電波を通じお茶の間に披露されている。

生活すべてに必要なものは自給自足で賄うエコの達人。街角のゴミ拾いに参加し、目立つコスチュームで若者が参加。ゴミを拾いながら知らない人と会話を交わし、コミュニケーションをとっている。かなり多くのゴミの量、驚きと腹立ちと、ゴミを拾う事で自分は絶対捨てないという気持ちに変わってくる。体験を通じての感情の変化。これをうまく演出してテレビ局は報道。良い事なのだが、毎日が環境月間であって欲しいと私は願う。また、衣食住の一つ一つを、天然素材を生かした本物の洋服、本物の土で作った本物の野菜、100年持つ本物の家づくりなど「本物志向」「本物を目指そう」というキャッチフレーズやキャッチコピーをいたるところで目にし耳にする。今までのものは本物ではなかったの?と不思議な気持ちになる。選り側の見識や経験、知識、知見が問われるのであろうか。

何はともあれ、環境月間。この機会に大上段に構えず「本物のエコな生活」を体験していただくと良いかもしれません。



THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT

# 環境会議所東北会報

2009.6 NO.24

#### 今月のメニュー

- 猪股代表理事あいさつ
- 第12期・平成21年度総会開催
- エコプロダクツ東北2009 出展募集

- 環境会議所東北会員紹介
- 株式会社 木村土建
- 株式会社 プロジェクト・ウサミ
- 株式会社 富士防災

- みちのくEMS
- みやぎグリーン購入ネットワーク
- 新入会員紹介
- 編集後記

## 只今、第2コーナーを走行中…環境会議所東北 代表理事 猪股 宏

環境会議所東北は、平成21年度設立11年目を迎えます。10年一昔とも申しますのでその10年を一区切りとすれば第二期に入ったことになります。陸上トラックの最もハードな種目とされている400m競争を想定すれば、第2コーナーに走りこんでいるところです。400mでは、スタート、コーナリング、ラストスパートが大事な要素とされています。

小職は8年目からバトンタッチを受けましたが、敢えて勝手に顧みてみたいと思います。設立当時(スタート時)は先行する環境関係NPOは周りになく、設立メンバーの努力も当然ながら周囲の期待と支持を受けながら比較的スムーズなスタートがとれたと思うわけです。つまり、走行コース=アウトコースと想定できそうです。アウトコースでありますので周囲にライバルの姿はないでしょう。そこで、第2コーナーにむけてカーブを切りながら周りをみてみるとインコースからの追い上げ厳しく、余裕の走りとは言えない状態に気がつくわけです。しかし、焦ってしまうと逆に走り固くなり、ストライドが伸びなくなっていたようなものかもしれません。

このようなことを反省点として、第2コーナーを廻りきれないように、初心に帰して、10年間で知らず知らず蓄積された「慣習化」したものを見直し、新たな一歩を踏み出し、会員ならびに社会への環境の意識普及ならびに社会還元をしていこうという覚悟でございます。

ところで、アメリカではオバマ大統領がいち早くグリーンニューディール政策に取り組みはじめました。我が国でも、「エコ」「環境」と冠のついた

施策が多方面で進められるようです。監督官庁である環境省も「緑の経済と社会の変革」を打ち出し、いまや環境と経済は切り離せないものとなっていることは、万人の知るところです。このような今こそ、環境会議所東北の役割が大事なものと自負していますが、問題は“何ができるか、何をするか”でしょう。

環境会議所東北がこれまで取り組んできた環境経営のツールとしての「みちのくEMS」や「グリーン購入」の普及啓発は、参加メンバーからの評価・反響を判断すると、正しい方向に進んでいると確信しております。宮城県は平成21年4月1日付けで、総合評価、経営審査評価点の加算がISO14001と同格と認めました。このことが追い風となつてか、みちのくEMSに取り組み企業が増えており、環境経営が拡大するだろうと予想されます。このような地道で、継続的な環境支援が、本環境会議所東北の大きな役割であろうと考えられ、引き続き重点推進をする予定です。また、上述のように多くの環境施策が計画されていることから、本会がこれまでに蓄積したネットワークを介して入手できる情報を、適宜リリースすることで、会員さらにはその周囲の皆様の支援ができればとも考えております。

以上のような活動をとおして、富県宮城を目指す宮城県の中小企業が発展するために一助となる環境会議所東北を目指しますが、会員各位からのフィードバックがあれば、なお一層厚なる活動の実践になりますので、御協力をお願い致します。

## 第12期・平成21年度総会開催

第12期・平成21年度通常総会を平成21年5月23日(土)パレス宮城野において開催した。

発会当時から顧問の野池達也先生(東北大学名誉教授・日本大学大学院教授)、西野徳三先生(東北大学名誉教授・東北生活文化大学教授)が臨席下さった。記念講演では宮城県産業技術センター鈴木康夫所長から『「富県宮城の実現」を目指して!~実務レベルから~』と題し、宮城県は平成28年度までに県内総生産を10兆円以上にすることを目標に『生れてよかった、育てよかった、住んでよかった』と思える『富県宮城の実現』を目指し施策を展開していることや、技術相談のワンストップ窓口「KCみやぎ」や支援制度の内容について詳しく講演頂いた。

総会議事に移り、猪股代表理事を議長に選出した。第1号議案「第11期



事業報告並びに貸借対照表および損益計算書承認・監査報告」、第2号議案「第12期事業計画(案)並びに収支予算(案)」、第3号議案その他の件、定款の一部改定について諮ったところ、全議案は満場一致で承認された。会場を移した交流会は顧問・野池達也先生の乾杯で始まり座席での歓談となった。参加者全員がクーモアある自己紹介などを交えなごやかな親睦が深められた。

# エコプロダクツ東北 2009

10/15(木) 16(金) 17(土)  
10:00~17:00  
(10/17 10:00~16:30)

会場：夢メッセみやぎ  
主催：NPO法人環境会議所東北  
共催：(社)産業環境管理協会

## 出展募集!

- ◇テーマ 「いのち」はぐくむエネルギー
- ◇目的 あらゆるエネルギーについての学び
- ◇内容 出展企業ブース  
(新エネルギー・省エネルギー・創エネルギー・プロダクツゾーン)  
○環境科学教室  
○エコプレゼンステージ 出展企業の運営  
○環境セミナー  
\*環境省関連セミナー  
低炭素化社会・カーボンオフセット・カーボンフットプリント  
\*経済産業省関連セミナー  
売れるものづくりとは、環境経営セミナー  
暮らしのエネルギー・住まいのエネルギー  
食のエネルギー・衣服のエネルギー  
\*食の安全  
\*海外の環境最新情報
- ◇入場料 無料

■出展料

|              |       |          |
|--------------|-------|----------|
| フルセットブース     | 1小間9㎡ | 189,000円 |
| スペース         | 1小間9㎡ | 168,000円 |
| コミュニケーションブース | 1小間4㎡ | 84,000円  |
| 屋外展示スペース     | 1小間   | 57,500円  |

### ■エコプロダクツ東北2009 出展者紹介 2009年6月17日現在

- ・中部エコテック(株)
- ・(株)アイシム医療器
- ・東和電機工業(株)
- ・(株)藤田製作所
- ・(株)ケット科学研究所
- ・(株)サイコー
- ・大成建設(株)東北支店
- ・財団法人  
東北産業活性化センター
- ・NPO北日本木材  
資源リサイクル協会
- ・日環エンジニアリング(株)
- ・中外産業(株)
- ・新沼商店(株)
- ・ソニー(株)
- ・(株)エフピコ 仙台営業所
- ・サンポット(株) 仙台営業所
- ・(株)遠藤店
- ・協業組合仙台清掃公社
- ・大和リース(株)
- ・ヤンマーエネルギーシステム  
(株)仙台支店
- ・NPO法人メダカの学校
- ・一般社団法人パソコン3R推進協会
- ・光電気通信システム(有)
- ・(株)ベネッセコーポレーション
- ・東北リコー(株)
- ・東海ビジョン(株)
- ・(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ  
東北支社
- ・NPO法人 オリザ・ネット／  
宮城学院女子大学
- ・(株)アメテック東日本設備
- ・有限責任中間法人JBRC
- ・三丸化学(株)
- ・仙台市ガス局
- ・財団法人  
天然ガス導入促進センター
- ・新港リサイクル(株)
- ・(株)リバースジャパン
- ・(株)KM環境技研
- ・持続工学研究会  
(東北大学超臨界センター)
- ・新日本石油(株)
- ・(株)日本環境認証機構
- ・スチールプランテック(株)
- ・WINPRO POWER(株)
- ・独立行政法人産業技術総合  
研究所東北センター
- ・(株)佐善工務店
- ・神綱商事(株)

## 株式会社 木村土建 代表取締役社長 木村 浩一氏

〒981-0505 東松島市大塩字五台23-2  
TEL. 0225-82-3006  
従業員43名 創立/昭和46年7月(創業は昭和40年) 資本金/3,000万円

三陸自動車道の矢本I.C.から鹿島台方向へ車で5分ほどの所に、(株)木村土建本社とエコランド・キムラがある。同社は創業以来、土木建築を主体とし、同時に必要となる解体工事や廃材運搬を行ってきたが、平成元年ころから発生廃棄物の再利用に本格的に取り組み、現在では土木建築・解体工事業とリサイクル中間処理業の二つが事業の大きな柱となっている。



代表取締役社長 木村 浩一氏

木村浩一社長は、平成元年に松島自衛隊基地の滑走路建設に伴う廃路盤の再利用を依頼され、「遠からずあらゆる廃棄物をキチッと処理・再生する時代になる」と直感。すかさず産廃処理の各種許可を取得し、機材を導入してリサイクル中間処理業を開始。2003年7月には、ISO9001認証取得とともに「エコランド・キムラ」を立ち上げた。

エコランド・キムラは、3万9,200m<sup>2</sup>の広大な敷地にトラック走行ラインが敷かれ、受付・計量から、破碎・分別・焼却の各施設、再生砕石製造、廃材チップ製造、プラスチック系固化燃料(RPF)の製造の施設の他、ストックヤード等々が生産ラインのように並び、建設廃材から、新たな建設資材や燃料製品を生み出すエコファクトリーだ。最初は再生砕石の生産から始まり、石巻市にある日本製紙(株)と契約し木質系の廃材チップをバイオマスポイラーの燃料とする開発や、東松島市と連携した廃プラRPF燃料の生産…と徐々に業務を広げ、いずれも軌道に乗せてきた。

ISO9001の認証取得以来、社員に「いい仕事・いい商品を生み出せば、必ずいい結果が出る」という意識も根づいたという木村社長。もう一つの目標は「地域貢献・地域振興の役に立つこと」といい、みやぎスマイルロードプログラムの清掃活動や、植栽を行うフラワーロード活動にも取り組んできた。

「ついでの間までは“勢い”だけでやってこれた。今は“がまん”の時代”に入っているが、産廃リサイクルの流れはノンストップで技術力・品質・生産性を問われるようになった。これからは真剣勝負でしょうね」。

3年前、脳梗塞で倒れ一時は手足が動かず話もできない状態になったという木村社長。「健康には自信があっただけにショックでした。幸い、倒れてすぐ救急処置されたのでかなり回復できた」と笑うが、すでに日常業務は三代目社長となる予定の長男・木村浩章常務に任せ、新たな成長段階に入った同社の未来に思いをはせている。



エコランド・キムラの入口付近。ここは多様なリサイクルを可能にするエコファクトリーだ

## 株式会社 プロジェクト・ウサミ 代表取締役社長 宇佐美 良秀氏

〒981-3626 宮城県黒川郡大和町吉岡南2-3-17  
TEL. 022-347-2207  
従業員8名 創立/平成2年5月 資本金/1,000万円

仙台から北へ約30Kmの大和町。町の文化施設・まほろばホールのすぐ脇にある“プロジェクト・ウサミ発電所”の出力は5.5Kwシステム。やや大きめの屋根にキラキラ輝く太陽電池パネルが敷き詰められている。広告看板からスタートしたプロジェクト・ウサミだが、現在は太陽光発電とオール電化の提案・施工・販売店として地元で広く知られる存在だ。同社の施工・販売で、大



代表取締役社長 宇佐見 良秀氏

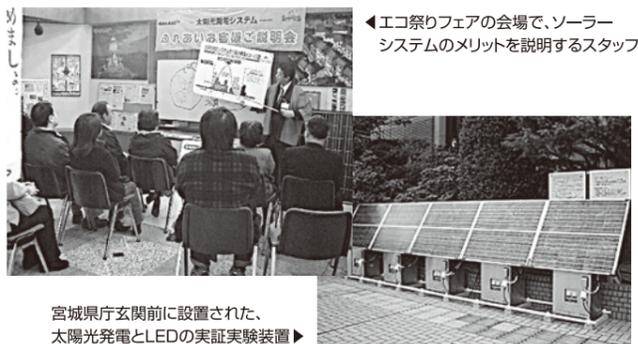
和町は宮城県内トップクラスの太陽光発電システム導入率を誇っている。「きっかけは広告看板製作の得意先、静岡市のK商会さんとおつき合いから。平成13年ころ太陽光発電の広告看板製作を依頼された際、「宇佐美さん、あなたも環境ビジネスとしてやらないか」と声をかけられたんです。まだ高価な上、技術的な難しさもありましたが、これが幸運だった」と宇佐美社長は笑顔で語る。

太陽光発電やオール電化機器を知るほどに「これは素晴らしい商品だと思いました」。“待ちの営業”である広告業界から“攻めの営業”に転身できると考えた宇佐美社長は、決意して静岡にスタッフと共に単身移住し営業マンとして働きながらメーカー研修を受け、太陽光発電+オール電化住宅の知識・設置技術を身につける。「しからみのない土地でゼロからスタートしたのが良かった」。

その年のシャープの中部地区販売コンクールでトップに輝いた宇佐美社長は、勇躍、大和町に戻り土地を取得し、事務所を新築・事業をスタートしたのが平成15年春。しかし意気込みを裏切るように半年ほど売上はまったく伸びなかった。訪問販売による展開に見切りをつけ各種フェアや地元の祭り、スーパーの催事場などに出費覚悟で参加したり、自らイベントを打ってPRに努めたという。やがて口コミやイベントで知ったというお客様より受注がくるようになり、人々の“エコ意識”の高まりとともに売上も上向き、昨年末からはっきりと変化、今年の補助金制度の復活や、売電買取価格2倍へ引き上げでさらに追風を感じているという宇佐美社長だ。今後もイベント提案型営業の先駆者として期待していただきたい。

「今では、オール電化住宅の快適性が標準となりつつあります。この太陽光発電を屋根に設置すれば、発電した電気を無駄なく自分の家庭で使用し、使い切れない余った電気を電力会社に売ることができます。屋根上貯金とも呼ばれているんですよ」。

全ての住宅が太陽光発電を設置すれば、日本全体では約20%以上のCO2削減も可能だという。環境の時代という“大きな販路”を得て、プロジェクト・ウサミの今後の活躍に目が離せない。



◀エコ祭りフェアの会場で、ソーラーシステムのメリットを説明するスタッフ

宮城県庁玄関前に設置された、太陽光発電とLEDの実証実験装置▶

## 株式会社 富士防災 代表取締役社長 千葉 正清氏

〒981-3215 仙台市泉区北中山1-1-18  
TEL. 022-379-4313  
従業員18名 創立/昭和61年11月 資本金/1,000万円

「宮城県は大地震再来の可能性が話題となり、人々の意識も高く、防災企業は活動しやすい面もあります。しかし本来、防災とは、人の生活を普段のまま続けられるよう、必要なことを一つずつ積み重ねていく地味な仕事。当社のお客様はほとんどが企業や公共団体ですから、常により高度なリスクマネジメント、そしてコストパフォーマンスが問われています」と話し始めた



代表取締役社長 千葉 正清氏

千葉正清社長。20歳でこの道に入り、自らの足でさまざまな災害現場を踏んで“災害がもたらす悲劇”を知り、〈備えることの重要性〉を知る、防災一筋のプロである。仙台市北部の閑静な住宅街にある同社は、学校・病院などの公共施設を始め、商業ビル、工場などの消防設備を中心に、〈防災設備の設計・施工・保守点検・販売等〉で信頼を集める総合防災企業。宮城県内はもとより、福島・郡山・山形に営業所を設置し事業を展開している。

「いちばん大切なのは提案力」という千葉社長。防災設備は法規制などが非常に多いことから、「法に守られお客様の負担で、必要な設備をつくらせていただく」仕事なのだ。だからこそ「あぐらはかけない」し、既存の建物や設備を有効に活用しながら、変化する時代に即応した、最適な防災体制を実現すること——個々の現場に応じたアイデアや技術力・応用力が求められているというのだ。

「日々進歩する建設・設備の技術・知識に対応するには、我々も新たな資格を取得するなど、努力して自らを高めていくことが大切です。また防災設備は一般人の入らない場所や、プライベートが重視されるような場所に設置されていることが多いですから、社員には魅力的な対応——礼儀作法や言葉使いを大切にすること、“常にまわりを見て、自分の言動に活かす”よう指導しています」。

「まず観察力なのだと思います。自分の身近な“ムダやムラ”に気づくことが第一歩です。ごみの分別やパソコンの電源、また仕事における時間の使い方なども同じことです。自分のまわりをよく見て、人への接し方、仕事の進め方など、良いことを自分のために活かす。それができるようになれば、仕事を義務としてではなく、自分の人生の権利として、主体的に考えられるのだと思いますね」。

防災の目的は人命を守ることに他ならない。基本は、人にやさしいかどうか。これは環境問題と共通する価値観だ。火災や災害から人命と資産を守り、社会に貢献すること——人を大切に作る防災企業は、今日も東北各地で着実な点検保守の仕事をこなし、明日の確かな防災へと提案活動に走りまわる。



自動火災警報設備の作動点検



消火ポンプ点検